

科目名	教育心理学(日曜日の集中授業クラス)	
担当教員	田爪宏二、赤松大輔	
授業の概要	心理学の視点から、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関する代表的な理論や研究成果について、学校教育との関連を中心に論じる。その上で、主体的な学習を支える上で教師に求められる知見と、それを踏まえた教育実践のあり方について考察する。	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する代表的理論及び教育における発達理解の意義を理解する。 2. 各時期における発達の諸側面(運動、認知、言語、社会性等)の内容や特徴を理解する。 3. 様々な学習の形態や概念及びその過程に関する基礎的な理論を理解する。 4. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について理解する。 5. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える支援について理解する。 	
授業計画	回	内容
	1	教育心理学とは(田爪)
	2	発達の基礎理論(田爪)
	3	心身の発達 ①乳幼児期(田爪)
	4	心身の発達 ②児童期(田爪)
	5	心身の発達 ③青年期以降(田爪)
	6	特別な支援と教育心理学(田爪)
	7	学びのメカニズム ①学習と知識獲得(田爪)
	8	学びのメカニズム ②認知的情報処理と記憶(田爪)
	9	学びのメカニズム ③動機づけと学習(赤松)
	10	教育心理学と教育実践 ①認知発達と学習支援(赤松)
	11	教育心理学と教育実践 ②学級集団と学習支援(赤松)
	12	教育心理学と教育実践 ③個性・個人差と学習支援(赤松)
	13	教育心理学と教育実践 ④教育評価(赤松)
	14	子どもの情緒・適応の理解と心理的支援(赤松)
	15	学校教育をとりまく諸問題と教育心理学(赤松)
16	試験	
テキスト・参考書	<p>テキスト: 田爪宏二編 教職エクササイズ 教育心理学 ミネルヴァ書房</p> <p>参考書:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大久保智生・牧 郁子編 実践をふりかえるための教育心理学 ナカニシヤ出版 ・多鹿 秀継 教育心理学(第2版):より充実した学びのために サイエンス社 	
自学自習についての情報	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを授業前に熟読のうえ、授業に臨むこと。 ・講義内容についての理解や考察を深めるために、自身が過去に体験してきた学校教育と対応させたり、将来教師となった場合を想定しながら学習を進めて欲しい。 	
授業の形式	授業はテキストに沿って講義形式を中心とするが、内容に応じてディスカッションや意見の発表の時間を設ける。授業内容のまとめ、考察の記述(小レポート等)を求め、その内容は適宜授業内でフィードバックする。	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 試験(60%)、 2) 小レポート等の提出状況と記述内容(30%)、 3) 授業への参加態度、積極性(10%) <p>授業時間数の4分の3以上の出席がない場合 又は 終末試験を受験しない場合は、成績評価の対象としません。</p>	
その他	テキストは必ず事前に購入し、初回から持参すること。	

科目名	幼児の心理と相談(日曜日の集中授業クラス)	
担当教員	佐川早季子	
授業の概要	幼稚園教育要領の理解を基にして、幼稚園における幼児の生活及び遊びの実態に即して、幼児の発達及の過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理及び対応の方法について理解することを目的とする。幼児の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な教育相談の基礎的知識・理論を身に付ける。	
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解する。 2. 幼稚園における教育相談の意義と理論を理解し、保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解する。 3. 幼児の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を理解する。 	
授業計画	回	内容
	1	幼児理解と発達の理解
	2	保育現場における幼児理解
	3	保育の中で見られる幼児の葛藤やつまずきの理解
	4	幼児同士のいざこざや仲間に入れない幼児の理解と対応
	5	配慮・支援を要する幼児:発達のかたよりと支援
	6	子育てに関わる現代的な課題
	7	子育て支援の実際
	8	教育相談の基礎的知識:カウンセリング理論
	9	教育相談の基本(1)幼児の不応答、虐待が疑われる幼児の事例等から
	10	教育相談の基本(2)園・地域における専門家との連携
	11	教育相談の基本(3)プレゼンテーション
	12	教育相談の実際(1)特別な配慮を必要とする幼児の事例から
	13	教育相談の実際(2)保護者の子育てへの不安や葛藤
	14	教育相談の実際(3)プレゼンテーション
	15	医療、福祉、心理等の専門機関との連携、まとめ
16	試験	
テキスト・参考書	テキスト:小田豊・秋田喜代美『子どもの理解と保育・教育相談』みらい 参考書:必要に応じて配布する	
自学自習についての情報	資料等の読解、発表の準備	
授業の形式	講義と演習 講義が中心となるが、知識を具体的な教育・保育場面や子どもの姿と結びつけて理解できるように、ビデオ映像の視聴や事例検討を行う。また、多様な視点で子どものことをとらえる活動として、自分自身の経験や考えをふり返るワークや他者の考えを知るための話し合い活動、グループ活動をとり入れる。	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	授業への取り組み(30%)、発表内容(40%)、レポート(30%) 授業時間数の4分の3以上の出席がない場合 又は 終末試験を受験しない場合は、成績評価の対象としません。	
その他	特記事項なし	

科目名	教育課程論(日曜日の集中授業クラス)	
担当教員	徳永 俊太、田中 曜次	
授業の概要	学校教育において何をいつどのように教え学ぶのか。こうした問いにかかわるのが、各学校で編成する教育課程(カリキュラム)である。本授業では、教育課程編成の意義と具体的な方法について検討する。また、各学校の状況にもとづいて行うカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方について検討する。	
授業の到達目標	1. 学校教育における教育課程の編成の役割・機能・意義について理解する。 2. 教育課程編成の基本的な原理と具体的な方法について理解する。 3. 学校全体を見渡して、組織的・計画的にカリキュラム・マネジメントを行うことの意義について理解する。	
授業計画	回	内容
	1	オリエンテーション(教育課程とは何か)(担当:徳永 俊太)
	2	教育課程の編成原理(系統主義と経験主義)(担当:徳永 俊太)
	3	教育課程の構造(教科学習と総合的な学習の時間)(担当:徳永 俊太)
	4	教育課程の構造(教科と教科外)(担当:徳永 俊太)
	5	教育課程の改革をめぐる動向(担当:徳永 俊太)
	6	資質・能力にもとづく教育課程の編成方法(担当:徳永 俊太)
	7	教育課程の評価(担当:徳永 俊太)
	8	カリキュラム・マネジメントの意義(担当:徳永 俊太)
	9	教育課程改革の歴史(学習指導要領の変遷)①戦後初期のカリキュラム改革運動(担当:田中 曜次)
	10	教育課程改革の歴史(学習指導要領の変遷)②生活と科学の関係(担当:田中 曜次)
	11	教育課程改革の歴史(学習指導要領の変遷)③ゆとりと充実(担当:田中 曜次)
	12	教育課程改革の歴史(学習指導要領の変遷)④「新しい学力観」(担当:田中 曜次)
	13	教育課程改革の歴史(学習指導要領の変遷)⑤「生きる力」と総合的な学習の時間(担当:田中 曜次)
	14	教育課程改革の歴史(学習指導要領の変遷)⑥「確かな学力」と「知識基盤社会」(担当:田中 曜次)
	15	まとめ(担当:田中 曜次)
16	試験(担当:田中 曜次)	
テキスト・参考書	【テキスト】小学校・中学校・高等学校学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(すべて、最新版) 【参考書】田中耕治編『よくわかる教育課程(第2版)』ミネルヴァ書房、2018年(初版は2009年)。	
自学自習についての情報	講義の中で紹介する参考文献などをもとに理解を深めてほしい。	
授業形式	講義とグループ・ディスカッション	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	毎回の意見(30%)と終末試験(70%) 授業時間数の4分の3以上の出席がない場合 又は 終末試験を受験しない場合は、成績評価の対象としません。	
その他	特記事項なし	

科目名	保育内容・人間関係の指導法(日曜日の集中授業クラス)	
担当教員	古賀松香	
授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。また、幼児の発達を踏まえ、それにふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。	
授業の到達目標	幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解し、具体的な保育場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。指導案作成と改善案の検討を通して保育案を練り上げていく視点を身に付け、幼稚園教育における評価のあり方を理解する。さらに幼小接続等、現代の教育課題を領域「人間関係」の視点から理解し、保育構想の向上に取り組むことができる。	
授業計画	回	内容
	1	幼稚園教育要領における領域「人間関係」
	2	現代社会と領域「人間関係」—幼児教育の効果と社会情動的スキルの指導
	3	乳児期の育ちと領域「人間関係」
	4	幼児期の育ちと領域「人間関係」
	5	道徳性・規範意識の育ちと領域「人間関係」
	6	自立心を育む援助—教師との関係基盤と自己発揮
	7	いざこざと教師の援助—遊びの中で友達と折り合う
	8	個への援助と集団保育の展開—大好きな友達と楽しさのために折り合う
	9	発達の壁を越える—自分自身と向き合う
	10	ルールのある遊びと援助—葛藤と向き合う(模擬保育)
	11	協同性を育む保育の展開—長期の指導案作成と評価の視点
	12	保護者・地域と共に子どもを育む—情報機器の活用と社会に開かれた教育課程の実践
	13	これからの幼小接続と人間関係(1)—幼小接続期の主体的・互恵的活動の教材研究と活動展開
	14	これからの幼小接続と人間関係(2)—幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を視点として
	15	領域「人間関係」をめぐる現代的諸課題・まとめ
16	試験	
テキスト・参考書	テキスト1:『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(最新版) テキスト2:『実践事例から学ぶ保育内容 社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」—乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは—』 無藤隆・古賀松香編 北大路書房 必要に応じてプリント資料を配布する。	
自学自習についての情報	テキスト2を教材とした反転授業を行うので、テキストの指定箇所を必ず読み、事前に課題を行ってから参加すること。	
授業の形式	講義及び演習	
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	授業のコメントシート(30%)、課題・演習内容(40%)、終末試験(30%) 授業時間数の4分の3以上の出席がない場合 又は 終末試験を受験しない場合は、成績評価の対象としません。	
その他	特記事項なし	